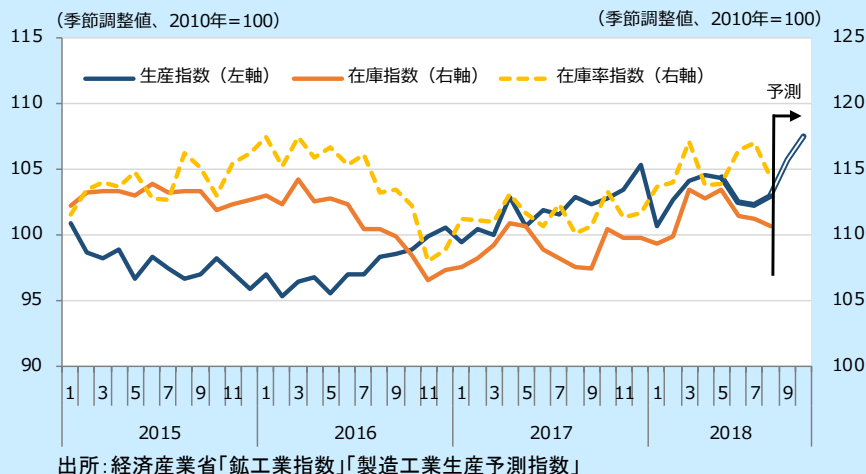


日本：鉱工業生産指数（2018年8月）

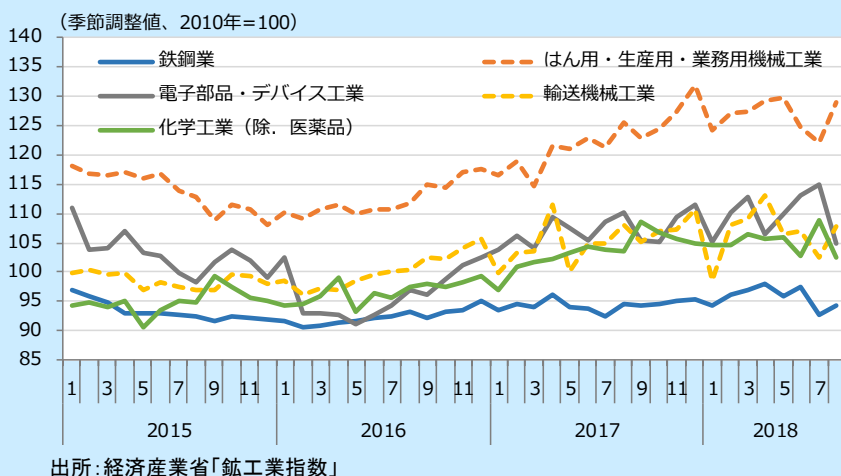
—生産は緩やかな回復基調を維持—

MRI Daily Economic Points
September 28, 2018

鉱工業生産 / 在庫指数



変動への寄与が大きい業種の生産指数



評価ポイント

今回の結果

- 8月の鉱工業生産指数(速報)は季調済前月比+0.7%と4ヶ月ぶりに上昇。
- 業種別にみると、15業種のうち10業種が前月比で上昇した。半導体製造装置を中心にはん用・生産用・業務用機械(同+5.6%)で高い伸びとなった。また、7月の西日本豪雨により一部工場が操業停止となった影響が剥落した輸送機械工業(同+5.2%)でも上昇幅が大きく、全体を押し上げた。
- 一方、5業種が低下した。前月まで3カ月連続で上昇が続いていた電子部品・デバイス工業(同▲8.8%)や、前月高い伸びとなった化学工業(除く医薬品)(同▲5.7%)で低下幅が大きかった。
- 在庫指数は前月比▲0.4%と3カ月連続で低下した。ただし、業種別に見ると、2018年以降、電子部品・デバイス工業や、化粧品を中心とする化学工業(除く医薬品)では、在庫指数や在庫率指数が上昇傾向にあり、今後、在庫調整が生産抑制することも考えられる。
- 製造工業生産予測調査によると、9月の生産は前月比+2.7%の増加が見込まれているが、経済産業省の補正值は同+0.2%程度にとどまる。北海道胆振東部地震など自然災害の生産への悪影響も予想されるため、9月の生産は経産省の補正值から下振れ、減少する可能性もある。

基調判断と今後の流れ

- 生産は回復基調を維持しているが、2018年以降は輸出の伸びの減速もあり、回復ペースは鈍化している。先行きは、今後数ヶ月は在庫調整により横ばい圏内での推移が続くものの、国内では所得環境の改善による内需回復は続くこととみられることから、回復基調が途切れるには至らないであろう。
- ただし、①半導体関連需要の調整、②米国の保護主義化に端を発する世界貿易・経済の下振れ、③9月26日に日米首脳会談で開始が合意された日米物品貿易協定(TAG)の交渉の行方、などリスク要因には注視する必要がある。